

わたしたちのありか

話しかけないで ミミ打ちすると一変してしまう

どうして みんな じっと怪物を かかえていられるんだろう

目の前 “目眩の庭” が “白紙にはじまる”

ことばが浮かぶ とたんに わたしは やわらかな空気にこすれ

発火する 飛び火が “野のカーテン” をつかまえて

“花のない枝” をつかまえて

ことばが つぎつぎ ことばをつかまえて

でも “目眩の庭” って なんだろう

歩を止めるたび ことばと 風景の 火打ち石が ぶつかって

あたりから ピチ、パチ、舌打ち ほらみろ ソラミミ

ミミ打ちされる

火ノ手ちゃん、跳びあがり 煤煙くん、のびあがり

一行が裾から燃えあがる

“白紙にはじまる” が燃えあがる

“花のない枝” が燃えあがる

“狂気の林道” が燃えあがる

“小鬼のダンス” が燃えあがる

あたりまえに わたしはいるのに とほうもなくて

ことばがでない うーん うーん

うーん うーん

焦げついた オープンからとりだす 目眩の庭は

空
チ
石
火
打
チ
舌